



文苑

偶作六首

佐々木信綱

春の野につくし摘む子ら子らの如

われも幼なき時はありしを

學ひやゆ歸りこし子のはこりかに

かきてはみするちりぬるをわか

撫子に花さかせむとかのが身の

春はすくし、女教師の君

ねもころに子らを教ふと老て猶

鞭とりませる師の君あはれ

七つ子のいたづらざかり親だにも

手にあまれるを教へます君

鬼か嶋せめて歸りし勢ひに

門より歸る學ひやの子ら

馬二十五首

(竹拍會兼題)

樺山常子

ひな歌をうたひかはして馬曳て

野道すき行く童への友

松平岳子

いつくにか急きゆくらんますらをの

手飼の駒に鞭おはせつゝ

増山深雪子

われに荒れて向ひより来る放れ駒

道行きふりのむねそとゝろく

板倉止子

いさましや外國迄も踏ゆかん

ますらたけをの乗ませる駒

堀越科子

紫のせて馬の綱とる童への

背にも薪をかひて行く哉

松井友子

馬の背にまひは眠りてゆひつけし

花に小蝶の狂ひく行く